

情報連絡員だより

—令和元年7月の報告より—

前年より一月遅い梅雨明けが
多くの業種に影響を与える

業種 / 景況天気図		概況
全	体	前年と比べて梅雨明けが遅れたことが、多くの業種に影響を与えている。食料品のパンのみ期待通りの結果となったが、全体としてはほとんどの業種に悪影響が及んでおり、業況の悪化を訴える業界も見受けられる。また、引き続き米中貿易摩擦や人手不足、後継者問題等を懸念している様子が見え始める。
製 造 業	食料品	パンは、長梅雨により涼しい日が続いたことで売上・収益ともに増加。菓子は、一部地域で観光客が増加し、土産物の売上伸長。製麺は、天候不順により特に乾麺類で苦戦し、前年を下回る荷動きとなる。酒造は、普通酒の大幅な売上減少が続く。食肉は、豚の出荷が順調で売上は増加したが、経費増加により収益悪化。
	繊維・同製品	桐生織物は、婦人服地が秋物の生産期、輸出向けは低調、和装織物は浴衣仕立て加工の繁忙期となる。伊勢崎織物は、技術者の高齢化と後継者問題により厳しい状況が続くが、広巾織物がインテリア部門で引き続き好調となっている。ニットは、冬物商品生産の最盛期を迎える。繊維製品は、売上・収益ともに悪化。
	窯業・土石製品	コンクリートブロックは、長梅雨の影響で出荷が停滞。砂利は、需要が減少し、売上・収益ともに悪化している。生コンは、中央地域の出荷量は引き続き前年を下回っているが、他地域で好調なところが多く前年並みを維持。砕石は、原材料価格の上昇や取引条件の悪化を背景に、前月からの業況悪化が継続。
	機械・金属	鍍金は、人手不足に対応するため、外国人労働者受入を予定している組合員が増加。電気関連は、前月同様、売上・収益ともに横ばいの状況が継続している。自動車部品は、大きな動きはないが、一部企業の順調な設備投資が明るい話題。SUBARU関連は、米中貿易摩擦の影響で生産台数が減少し、設備操業度低下。
	その他の製造業	木材は、製品により差はあるが、全体的に動きが悪く売上・収益ともに減少。紙加工品は、長期にわたる天候不順による飲料・野菜関係の荷動き悪化に伴い業況悪化。印刷は、用紙の確保はできたものの、仕事が確保できず売上・収益ともに減少。ゴム製品は、売上・収益ともに不変。
非 製 造 業	卸売業	高崎卸団地は、売上・収益ともに不変。前橋卸団地は、引き続き不安定な世界情勢を注視している。太田卸団地は、米中貿易摩擦や日韓対立の影響で業況悪化。農産物卸は、露地野菜の生育不良により一時的に品不足となるが、後半に持ち直し前年並みを維持。水産物卸は、鮮魚関係の売上が減少し厳しい状況。
	小売業	家電小売は、梅雨明けが遅れたことで前半はエアコンの売上が低調となるが、後半に持ち直した。中古車オークションは、消費税増税に向けた動きはみられず。燃料小売は、天候不順により販売量減少。生花小売は、売上・収益ともに前年並み。商店街は、長梅雨により来街者が減少、季節物商品の動きが低調となる。
	サービス業	温泉旅館は、ツアーやグループ旅行などの団体客、また、増加傾向にあるインバウンドにより好調な草津温泉が牽引し、全体として好調維持。前橋市域における不動産取引は、一部地域において減速傾向がみられるが、全体的には比較的順調に推移している。自動車整備・建築設計は、売上・収益ともに前年並みに推移。
	建設業	建設工事は、人手不足からくる人件費増加や人員確保に苦慮。解体工事は、学校関係の改修工事があり売上やや増加。塗装工事は、仕事量が非常に少なく、業況が悪化している。鉄構は、ボルトの納期遅延問題が落ち着きを見せ始める。電気工事は、梅雨のために作業環境が悪化する中、労働災害防止ミーティングを実施。
	運輸業	全体的に、梅雨明けが遅れたことを主な原因として荷動きが鈍化している様子が見え始める。特に野菜関係において顕著で、生育不良によりナスやキュウリなどの荷量が大幅に減少している。また、飲料水関係の輸送も、需要低迷により低調となる。小口配送は、医薬品PET配送は増加したが、全体的に動きが鈍い状況。